

**「ケアが根づく社会システム」  
2025 年度新規採択プロジェクト概要**

**新規採択プロジェクト①**

**人間と非人間の惑星的ケア**

研究代表者：中島 岳志（東京科学大学 リベラルアーツ教育研究院 副院長・教授）

**概要**

人新世と言われる現代においては、人間の過剰な利己的行為によって大規模災害や気候変動が引き起こされている。いま重要なのは、自然環境と人がともに生き抜くためのケアの倫理であり実践である。本研究では、従来のケア論が人間（生者）中心主義に陥っている点乗り越え、「惑星的ケア」の論理を可視化する。ケア関係を人間だけに閉じず、動植物や微生物を含む「ビオス」や山や川などの「ジオス」との相互ケア・利他関係を構築する。また、対象を生者のコミュニティに限定せず、死者や未来の他者を含むコミュニティへと拡大する。「世界観の再構築」および「ケアのインフラストラクチャリング」の考え方を採用し、社会システムのモデルづくりを実践する。「思いがけずケアが触発される環境」としてのインフラストラクチャリングを「余白のある装置」「偶発的出会いを促す媒介物」「人間以上のケアワーカー」「応答的な共異体的実践」として具体的に展開する。

## 新規採択プロジェクト②

### 相互期待感に基づくケア省察支援プログラムの創出

研究代表者：中谷 桃子（東京科学大学 工学院 准教授）

#### 概要

ケア現場では、ケア当事者同士が抱く「これをやってほしい・こうすれば喜ばれるはず」といった双方の期待、すなわち「相互期待感」のズレが、関係性やケアの質に影響を及ぼす。本研究は、相互期待感に着目し、ケアの質を向上させる理論と方法論の構築を目的とする。「ケアとその価値の可視化」では、ケアラー自身で現場映像を簡易に記録できるツールや、VR 技術を活用し、ケア実践を振り返る「省察」を通じて当事者の暗黙的な期待を言語化する。期待を「行動・言語・感情・認知・役割」の五分類で可視化し、ズレが生じる構造を明らかにする。さらに、「社会システムの実践」では、可視化技術を応用した省察支援プログラムを開発し、保育・介護現場における専門ケアラー、および家族ケアラーを対象に実践・評価を行う。これにより、ケア提供者と受け手双方が互いの立場を理解し、期待を調整できる関係性を築くことを支援する。最終的には、誰もがケアにおける相互理解を深め、その価値が認められることで、質の良いケアが根づく社会の実現を目指すものである。

### 新規採択プロジェクト③

#### 科学技術と社会をつなぐためのケア概念に基づく対話実践の再構築

研究代表者：八木 絵香（大阪大学 COデザインセンター 教授）

#### 概要

本研究ではケアの営みを、通念的にケアという言葉が飛び交う領域から、社会的論争を引き起こす科学技術へと拡張する。具体的には、「大規模エネルギー施設の誘致・稼働・廃止プロセス」を主題に据える。これらの施設は、安全性や環境影響への懸念のみならず、人びとの価値観の差異を際立たせ、さまざまな軋轢をもたらしてきた。しかしこれらの議論は典型的な「公私二元論」に基づき、ケアの倫理として正面から扱われてこなかった。本研究ではこの「ケアの不在領域」に着目し、質的調査や対話実践の再構築を展開すると同時に、これらを通じたケア概念の再編を目指す。

本プロジェクトが考えるケアが根づいた社会とは、人びとが互いに応答責任を引き受けながら生きる「共在」の態度が広く共有されている状態である。賛否が分かれる課題であっても違いを受けとめ、語りにくさや聴きにくさに向き合うことができる、意見の一致ではなく、違いが尊重される社会である。

## ＜総評＞

研究開発領域「ケアが根づく社会システム」は、「互いを自然に気かけながら助け合えるコミュニティ形成や、人びとが環境と互恵的に関わり合えるインフラ等の生活基盤の自発的な実証が複数地域で始まっていること」を領域の目標として本年度から開始し、第1回の公募選考を実施しました。大学・民間企業等から計90件もの応募をいただきました。選考基準に基づき慎重に書類選考、面接選考を実施した結果、最終的に3件の研究開発プロジェクトを採択しました。

選考にあたっては、「人は『ケアし、ケアされる』弱い存在である」という人間観に基づき、ケアとは、担い手から受け手に一方的になされるものではなく、双方向性を持った行為またはその行為が立ち現れる状況をいうという観点が考慮され、人間のケアという営みに新しい視座を提供しうるかを特に重視しました。また、この領域では見過ごされがちなケアの価値を可視化する研究開発だけではなく、その価値を社会に根付かせていくための実証活動をも実施するプロジェクト構成とすることを求めており、ケアを根づかせるために導入する社会モデルや教育プログラム等が、他地域に展開できる汎用性が期待されているかも考慮して評価を行いました。

今後、採択された3つのプロジェクトは、領域総括より提示された採択条件を踏まえた研究開発計画の精緻化を経て10月より研究開発がスタートします。総括・アドバイザーと採択プロジェクトによる個別面談のほか、採択プロジェクト関係者や総括・アドバイザーが一堂に会してコミュニケーションをする機会を設け、領域目標達成に向けて必要な研究開発についてより深く議論できる場を設けるなど、本研究開発領域としてもシナジー効果の創出をサポートしてまいります。

今年度の選考においては、ケア対話実践・ケア省察支援・自然とのケアに関わる研究課題を採択しました。いずれも、私たちにとってのケアの根本を問い直すプロジェクトでありました。今般の募集において特筆すべきこととして、本研究開発領域として実現を目指す「ケアが根づく社会システム」に貢献しうる、助け合いのコミュニティや公共空間の創出を目指した提案・アート等を介してケアの価値の定着を目指すアプローチによる提案等が多数見られました。しかしながら、提案における各研究開発項目間の関連性や、再現性ある方法として他地域にもケアの価値を展開させていくための検討、さらには提案する研究手法と目指すべき公共空間・コミュニティの在り方との関連性が不明確であるなどの理由により、残念ながら採択に至りませんでした。次年度の募集においては、これらの点をブラッシュアップして再度ご提案いただくことを期待しております。

なお、本研究開発領域の目指すところ、今年度採択プロジェクト、さらには次年度の公募の考え方についてご紹介する公開シンポジウムを、令和8年2月8日に開催予定です。引き続き、本研究開発領域についてご関心をお寄せいただけますと幸いです。

**「ケアが根づく社会システム」  
2025年度応募数および採択数**

○ 応募数および採択数

応募	面接	採択	採択率
90	12	3	3.3%

○ 女性が研究代表者となっている課題の数

応募	面接	採択
31	5	2

○ 研究代表者所属

	国立大	公立大	私立大	国研・独法	公益法人	民間企業	NPO	自治体	その他	合計
応募数	46	5	26	4	0	5	1	1	2	90
面接数	7	1	4	0	0	0	0	0	0	12
採択数	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3

○ 応募の地域別内訳（研究代表者所属）

北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州 沖縄	計
4	8	79	26	43	8	0	10	90

**「ケアが根づく社会システム」  
評価者一覧**

	氏名	所属・役職
領域総括	西村 ユミ	東京都立大学 健康福祉学部 教授
領域 アドバイザー	臼井 恵美子	一橋大学 経済研究所 教授
	岡田 美智男	筑紫女学園大学 現代社会学部 教授
	岡部 美香	大阪大学 大学院人間科学研究科 教授
	木多 道宏	大阪大学 大学院工学研究科 教授
	木村 篤信	一般社団法人 日本リビングラボネットワーク 代表理事／株式会社地域創生 Co デザイン研究所 ポリフォニックパートナー
	桐山 伸也	静岡大学 学術院情報学領域 教授
	熊谷 晋一郎	東京大学 先端科学技術研究センター 教授
	榊原 哲也	東京女子大学 現代教養学部 教授
	千村 浩	代官山やまびこクリニック 院長
	二瓶 美里	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
	細馬 宏通	早稲田大学 文学学術院 教授
	和気 純子	東京都立大学 人文社会学部 教授

(五十音順、所属・役職は 2025 年 6 月 10 日時点)